

# オブジェクション154

## しくじり編

岡森 利幸

本編は、次の13項目からなる。

- ① スキーバス軽井沢入山峠で転落
- ② 雪崩事故の再発防止策
- ③ ふるさと納税の利得
- ④ ブラックバイトの不当
- ⑤ 客の前払い金を踏み倒した「てるみくらぶ」
- ⑥ 韓国慰安婦の言い分
- ⑦ 金正男暗殺
- ⑧ 南スーダンPKO撤退
- ⑨ 悪魔払いの暴行
- ⑩ 赤ちゃんに嫉妬したゴールデンレトリバー
- ⑪ 長靴ギャグでまた怒おこられた政務官
- ⑫ 戦前回帰
- ⑬ 森友学園の野望

① スキーバス軽井沢入山峠で転落

以下は、新聞記事の引用・要約。

【毎日新聞夕刊 2016/1/5 一面、写真特集、社会】

1月15日午前1時55分ごろ、長野県軽井沢町の国道18号線「碓氷うすいバイパス」入山峠付近で、大型バスがセンターラインを超えて対向車線側のガードレールを突き破り、約3メートル下に転落して、山林内の立ち木に衝突した。運転手2人とスキー客ら計14人が死亡、27人が重軽傷を追った。契約社員の土屋広運転手（65）が運転していたらしいスキーバスで、14日の午後11時に東京・原宿を出発し、長野県北部のスキー場を巡るルートの途中だった。】

【毎日新聞夕刊 2016/1/21 社会】

軽井沢町のバス転落、ブレーキに異常なし、運転手に起因か。】

【毎日新聞朝刊 2016/1/23 社会】

スキーツアーバス転落事故、入山峠カメラと軽井沢橋カ

メラとの間800メートルを40秒で走り抜けており、平均的時速は72キロになる。下り坂でバスの速度は一時100キロになっていた。事故直前減速ブレーキ使用か。運行記録計（タコグラフ）の記録でわかった。」

【毎日新聞朝刊 2016/2/15 社会】

軽井沢バス事故、バス下り1キロ減速せず、運転記録で、直前96キロの速度が出ていた。」

【朝日新聞朝刊 2017/1/3 社会】

昨年1月15日の軽井沢バス事件、立件へ  
高速でクラッチ操作を誤るとニュートラルになることなどが判明、エンジンブレーキが利かなかった。」

【読売新聞朝刊 2017/1/14 社会】

軽井沢事故、バスのレバー誤操作か。大型特有装置のフインガーシフトは、規定を超える速度で低速ギアに入れようとすると、エンジンの故障を防ぐためにニュートラルにする。」

【毎日新聞朝刊 2017/1/15 社会】

軽井沢バス事故1年、運行会社が運転手の未熟運転を放置したことが原因とみて、管理不足の会社側を立件する方針。

高速になった状態でギアを変える際、シフトチェンジの操作を誤るとニュートラルに入ることが判明。」

【毎日新聞朝刊 2017/1/15 社会】

軽井沢バス事故1年、運行会社が運転手の未熟運転を放置したことが原因とみて、管理不足の会社側を立件する方針。

高速になった状態でギアを変える際、シフトチェンジの操作を誤るとニュートラルに入ることが判明。」

大型バスが時速100キロでカーブを曲がりきれず、ガードレールを突き破り、谷川に転落したのだから、すさまじい。バスの単独事故だった。運転していたのが、大型バスの運転に不慣れな65歳の運転手だった。この事故で、多くの乗客が死に、彼自身も死亡した。私は、このバス事故で運転手に同情したい気分を持っている。運転手が死んだから、というわけでもない。

なぜ彼が事故を起こしたかが問題だろう。一年以上経っても、なぞが残る。単に「運転手の未熟運転」として片付けられないケースだろう、と思っっている。事故を起こしたバスのギア（トランスミッション）がニュートラルになっていたことが、不可解なことのひとつだった。道が下り坂だから、当然、エンジンブレーキを効かすために、ギア（低速ギアが望ましい）に入れていなければならなかった。

彼はこの運行会社に入る際、中型バスの経験があるだけで、大型バスを運転したことがないと言っているのに、会社は大型バスを運転させた。試し運転のようなことも、ろくにしていなかった。いきなり大型バス運転の業務につかされたのが実情だろう。このとき彼が大型バスに乗務するのは、4回目だったという。しかも、深夜の山道を走る長距離運転だった。彼にとつては、初めて通る道だった。会社が彼に大型バスを運転させるならば、年齢を考えると、一般の運転手以上に慣らしのための時間を多くとって経験させるべきだったろう。

そもそも本来のルートでは高速道（上信越自動車道）を走るようになっていたのに、一般道（国道18号碓氷バイパス）を走っていたことが、謎の一つだ。バスにはGPSのナビゲーションが付いているから、道の間違えたとは考えにくい。彼自身がルートを変えたことになる。ツアーのルート変更は、通常は認められないはずだ。高速道を走ると高速料金がかかるから、それを浮かせようとしたと考えられる。格安スキーバスツアーを企画した旅行業者から、格安運行代金で請け負ったバス会社ならではの、ケチな発想であろう。新人運転手の発想とは思えない。組織的な入れ知恵があ

った、と私は解釈している。

真夜中の山道を走るのは、危険性が高い。午前2時近くなれば、眠くなる時間帯でもある。長時間の運転で注意力が落ちていたことだろう。気が緩んでいたかもしれない。助手席に相棒の運転手が座っていれば別かもしれないが、相棒はバスの床の下の小部屋で寝ているのだ。運転手二人乗っていると、運転するのは一人だ。

事故当時の状況を、推測を加えながら再現してみよう。

——横川を過ぎてからは、こんな時間帯で走っている車は少なかった。先行する車も、うしろについて来る車もなく、バスは単独で走っていた。道は上下左右にカーブしていた。道の両側には樹木が生い茂り、見通しが悪いが、対向車があれば、ヘッドライトの光がその前触れになった。そもそも対向車の数が少なかった。碓氷バイパスは比較的新しい道路であって、路面の状態がよく、おおむねゆるやかな上り坂だったから、大型バスは、大半の乗客が眠りに就いていたほど、快速に走っていた。信号で止まることもなく、道路の速度制限ぎりぎりまで、速度を高めて走っていた。

運転手は、上り坂が続いたため、アクセルを踏み続

けた。道のカーブに沿ってハンドルを操作する単調な運転だった。やがて入山峠に差し掛かった。峠を越してからは、しばらく平坦な直線状の道（約400メートル）が続く。ただし、ゆるやかな下り坂だった。運転手は峠を越したことに気づかなかつた。まだ上り坂が続くと思ひ込んで、それまでどおりの強さでアクセルを踏み込んでいた。直線状の道では、周りの景色が変わらないから、スピード感をつかめなかつた。

前方に、下降したカーブが迫ってきて、ようやく運転手は、速度が速めであることと道が下り坂であることに気づき、アクセルのペダルから足を外した。思いがけず、バスは高速で走っていた。カーブの手前でスピードを落とすのが基本だったが、カーブに入ってしまったからではフットブレーキを使うのは禁物だった。下手に強く踏むと、車体が傾き、最悪のケース、横倒しになる危険があつた。彼は、当然エンジンブレーキを使おうと思つた。フィンガーシフトを操作した。左手で低速ギアを選んで入れようとした。

「？」 入れたつもりが、入らなかつた。ギアが、外れたようにニュートラルになつた。

「これは一体どうしたことか！」 ふたたび、フィンガーシフトを操作した。入らなかつた。

「なんと、ニュートラルになつたままだ！ こんなときに、ギアの故障か？」

ニュートラルでは、まったくエンジンブレーキが効かない。彼はあせつた。その間にも、下り坂のためスピードが増していた。フットブレーキを軽く踏みながら、下り坂カーブを曲がつた。やはり車体が大きく傾いた。思うように減速できなかつた。左曲がりのカーブの後には、右カーブが続いた。下り坂を突き進むバスを、曲がりくねる車線に沿って走らせるだけで、一杯だつた。必死にハンドルにくらい付いた。スピードメーターが100キロを指していた。

「うっ、速すぎる！」

一つのカーブで車体がまた大きく揺れた。片側のタイヤが地面から浮いた。タイヤが接地していないと、フットブレーキがまともに効かない！

「ギシン」 車体左側から異音が発生した。それは車体の一部が道路わきのガードレールに接触した音だつた。それによつて、ハンドルを取られるように、車体の方向がずれた。彼は咄嗟にフットブレーキを強く踏むしかなかつた。

「ギューン」 タイヤが悲鳴を上げた。タイヤがロックすると、ハンドルも効かない。

「うわっ」すぐ目の前にきついカーブが迫ってきた。

「ダメだ！ 曲がりきれん！」

「スガーン、カガガ、ドッガーン」 バスはガードレールを突き破って、道路わきの斜面へ転落し、樹木の幹に衝突した――

エンジンブレーキが使えなかったことが元凶だ、と思える。運転手はエンジンブレーキを効かせたかった。必死になってフィンガーシフト操作したのに、なぜミツシヨンが低速ギアに入らなかったのか？

その理由はわかってる。エンジン・ミツシヨンの電子制御がそれを邪魔したからだ。エンジンが高速回転しているとき、「低速ギアに入れると、エンジンが壊れるから」というのがその理由だ。その場合、電子制御はニュートラルにしてしまう。運転手はこの特性を知らなかったことになっている。しかし、（特性だから）として片付けては、運転手が気の毒だ。運転手が本当にシフトチェンジの操作を誤ったのだろうか。

ときには、エンジンが壊れようと、どうなるうと、人間が低速ギアに入りたいときがあるのだ。エンジンは人間の命より重いのか、とエンジン技術者に私は聞きたい。私に言わせれば、ニュートラルにするなんて

ことは論外であり、エンジンを壊さない程度のギアに入れるのが、賢い電子制御だろう。

## ② 雪崩事故の再発防止策

【毎日新聞朝刊 2017/3/28 一面、クローズアップ

27日午前9時20分ごろ、7校参加の登山講習で、雪崩がおき、高校生ら8人死亡、40人負傷。悪天候のため、茶臼岳（1915メートル）に登らず、中腹のスキー場でラッセル訓練中、那須ファミリースキー場の第2ゲレンデの標高約1200メートルの樹木の斜面で、長さ200から100メートルにわたって滑り落ちた。】

【神奈川新聞朝刊 2017/3/30 社会

那須雪崩で、講習会責任者（50）は、大田原高校山岳部の顧問で指導歴は20年以上というベテラン。ラッセル訓練のルートや危険性については協議することなく、引率教諭が独自に判断したと語った。那須町長「（現場は）スキー場の境界から約400メートル離れた国有林内で雪崩が発生しやすいため、専門家でも入らないところだ。】

【毎日新聞夕刊 2017/3/30 社会

関東、東北7件の高体連、雪山講習見直し、安全管理徹

底へ。千葉県は1986年まで冬季の講習会を行っていたが夏季のみに変更した。三重県は、県立高校に冬山登山を中止するよう文書で通知した。】

【毎日新聞朝刊 2017/3/31 社会】

雪崩事故を受け、高校生の登山のあり方を見直す動きが始まっている。「雪山」登山は原則禁止されるが、「春山」との線引きがいまいきところがある。過度の自粛は、(高校生たちの)状況判断の能力低下につながるの指摘もある。野口健さん(43)は、顧問の教諭が山岳ガイドの資格を取ったり、外部の専門家をコーチに招いたりするなどの対応が必要だと話す。】

【毎日新聞朝刊 2017/4/3 社会】

栃木雪崩事故1週間、「荒天で訓練したこと」に疑問がもたれている。県警は業務上過失死傷で捜査している。雪崩を予見できたのか、安全管理面の判断に誤りがなかったか。

大田原校の生徒と教員計14人が午前8時半ごろ、ゲレンデ上部の樹林帯を越えて標高1400メートル付近の、遮るものが少ない斜面にさしかかった際、雪崩に襲われた。雪崩は160メートル以上流れ落ち、樹林帯の中にいた他校の生徒らも巻き込んだ。】

せっかくの3日間の登山講習会・最終日、悪天候のため、茶臼岳(1913m)への登山を中止し、代わりに予定外のラッセル訓練したのは、指導する側の妥当な判断だったのかもしれない。が、雪崩の危険を考へなかつたことがいけない。雪崩の発生しやすいところへ彼らが入り込んだのが一番いけない。雪崩は予測しにくい。いっどこで発生しやすいか、ある程度見極められると思うけれど……。今回、山のベテランと言える講習会の指導者たちさえ、予見を誤ったことになる。

雪崩は頻発するわけでもない。大規模な雪崩はまれだろう。だいたい局所的に起きるものであって、滑り降りるコースがだいたい決まっているものだろう。たまたま発生した大きめの雪崩が、ちょうど訓練中の生徒たちにそのコース上で出会った。率直に言うと、タイムイング(運)が悪かった。朝の出發を5分でも遅らせていれば……と私は考えてしまう。しかし、状況を考えると、雪崩の発生確率が相当に高かったわけだから、運が悪いなどと言っては、多くの人に怒られてしまいそうだ。指導者たちにも(ここで雪崩に(お)あうことはめつたにない)という経験則があったわけだろう。

結果論で言えば、生徒たちは標高1400メートル

付近まで登っていたわけで、どこまで登るつもりだったか、よくわからないが、茶臼岳（1913m）への登山と、ほとんど変わらない訓練を行っていたことになる。それでは、悪天候を理由に計画を中止した意味がない。それなら、正規なルートで茶臼岳に登った方が安全だったのではないか。

参加者同士で会話さえできないほどの、ほとんど目の前が見えないほどの、吹雪の中で訓練していたわけで、斜面の上方から雪が滑り落ちてくるのが見えなかったことも、悪い状況のひとつだ。（悪天候でラッセルするのも訓練のうちかもしれない）。彼らはいきなり雪崩にあったのだろう。雪崩が襲ってくるのが見えていけば、少しは逃げられたし、身構える姿勢をとることができた、と思える。ただし、被害の大きかった大田原校の班は樹木のない斜面にいたから、逃げる余裕もなく、雪崩の直撃を受けたことになる。

今回の雪崩は、表層雪崩だといわれている。以前から積もった雪の上に、新たに雪が降り積もると、層の境目で滑りやすくなり、新雪層が滑り落ちてしまうのだ。今回、雪が降り続き、その新雪が30センチ以上の層になっていたというから、雪崩が起きやすい状況があったわけだろう。専門家でなくても、理解できる。

講習会の責任者が「経験則から絶対安全と思っていた」と言い訳した。「この辺で雪崩など起きるはずがない」という思い込みだ。雪崩をまったく想定（予見）していなかったことになる。彼らは、この辺で雪崩を見たことがなかったのかもしれない。しかし、自分の経験則など当てにならない。独断といわれても仕方がないところだ。「自分たちは、何年も山に登っているのだ。だれよりもずっと山を知っている」というおごりがあったと思える。謙虚さがあれば、地元の専門家などに山の状況を聞き回って情報を収集したはずだ、と私は思う。地元では雪崩が発生しやすい場所として認識されていたことが後からわかって、遅い。当日、このスキー場（今シーズンの営業は終了していた）の周辺では、別の雪崩があったというから、雪崩の発生確率が高かったことになる。講習会の指導者が予見しなかったのは、うっかりレベルの失策に違いない。過失と言われても仕方がない。

雪崩注意報が出ていた地域の冬山で吹雪の中、ラッセル訓練させたのは、指導した側の責任になる。全面的に彼らが悪いことになるだろう。彼らは非難の矢面に立たなければならぬ。遺族たちに高額な賠償の訴訟を起こされるだろうし、刑事責任も問われるだろう。



ゲレンデの上部の、樹木が生えていない谷筋の斜面には入り込まないように、万が一のことを考えるべきだった。尾根筋、あるいは樹木帯の中にいれば、雪崩に対してはそれなりに安全だった。吹雪のために指導者の目がかすんでしまったのだろうか。

遭難時に居場所を知らせるビーコン（電波発振器）を生徒たちに持たせていなかったことも、完全管理の不備と指摘されている。ビーコンを持っていれば、遭難者が雪の中に埋もれても、駆けつけた救助隊によって場所が特定され、助け出されたかもしれないという。それで助かる確率が上がるわけだ。

事故が起きれば、再発防止策を図らなければならぬ。多くの学校では、冬山の登山や訓練を禁止する方向だという。禁止すれば、事故は起こりようがない。生徒が冬山で遭難することもないから、安心だ。学校の管理や指導の責任も問われることはないから、そうしたいのだろう。彼らにとって、責任が問われることが一番危険なのだ。

### ③ふるさと納税の利得

【毎日新聞朝刊 2016/9/27 社会】

鹿児島県志布志市のふるさと納税のPRのための、少女が「養って」の動画「UNAKO」、養殖ウナギを擬人化で批判沸騰。】

【毎日新聞朝刊 2017/2/18 一面】

ふるさと納税過熱、魅惑の返礼品。

23区、208億円の減収になった。】

【毎日新聞朝刊 2017/4/1 総合】

ふるさと納税、曲がり角、返礼価格は寄付の3割以下に抑制する。豪華な返礼品で注目を集めた。】

【毎日新聞朝刊 2017/4/12 総合・経済】

16年ふるさと納税調査、寄付返礼のコメが前年比1・8倍だった。】

ふるさと納税にすると、どっさり返礼品がもらえる。返礼品の中には、金に換えられるもの（換金可能な商品券など）があるから、納税者としては実質的な節税になる。得するのだ。節税効果があるとなれば、我も我もと、ふるさと納税に走る者が増えるに決まっている。

地方自治体としては、ふるさと納税をしてもらうと税収が増えるものだから、ふるさと納税者を増やすために、いろいろアイデアを練っている。鹿児島県志布



志市では昨年、養殖ウナギを擬人化するPR動画を作成したことが話題になった。セクシーすぎるというような批判が出て、放映が取りやめになった。可憐な少女が「私を食べて」と迫ってくる……。

高額な返礼品はやはり魅力的だ。地方自治体がほとんど高額な返礼品を出すと、高額な返礼品につられて、ふるさと納税にする人が増えるだろう、という魂胆だ。税込アップのスパイラルだ。スパイラルが過熱して、今般、総務省が見直しをしなければならなくなった。

返礼価格は寄付の3割以下に抑制するというが、3割でも大きいから、抑制効果には疑問だ。寄付すると、その分の税金が控除されて差し引きゼロなのだが、その3割の返礼品がもらえるという期待が膨らむ。

ふるさと納税については、税収の乏しい地方自治体への救済的な措置として、総務省が浅知恵あさちえを出したわけだろう。その分、地方自治体に国から交付税を出さなくてもすむことになる。

「現代用語の基礎知識2013」によると、自分の故郷や応援したい自治体に寄付すると、所得税や住民税が安くなる制度。2008年度税制改正で導入。寄付した場合、2000円を超える分が、1割を上

限に、所得税と居住する自治体の住民税から控除される。

しかし、ふるさと納税によって税収が減ったのは、いわゆる都会の自治体だ。税収の一部が地方に移されてしまうものだから、困るに決まっている。

返礼品については、何も規定がなかったようだ。寄付したのに、返礼品が来るのも、おかしなことだ。寄付するのであれば、返礼など期待せずに行うものだろう。返礼するにしても、ふるさとにちなんだ、地元の特産品を送ることが想定されていたと思う。しかし、だんだん特産品とはかけ離れた、魅力的な返礼品になってきた。納税者にとつて魅力的なのは、やっぱり、金目のものだ。

ふるさとでなくても、応援したい自治体にも寄付できる制度になっている。納税者は、返礼品が魅力的な自治体を選べるわけだ。返礼品がますます魅力的になるのは当然だろう。寄付するたびに高額な返礼品がもらえるのであれば、たまらない。その自治体を応援したくなる。自治体同士が、返礼品の魅力度で競合するから、つまらないものを返礼品にするような自治体には、寄付が集まらなくなる。

豪華な返礼品がもらえる自治体であるほど、応援したくなるのが、人の常だろう。これでは、ふるさと納税とは「返礼品が魅力的な自治体に寄付する制度」と定義を変えなきゃだろ。

応援したい自治体とは総務省が「被災した地区の自治体」を想定したものだ、と私は思うが、そのために、寄付をしてほしい自治体同士が競合しあうことになっている。寄付するのは「ふるさと」だけに限定したならば、返礼品を競って豪華にするようなことはなかったはず。

#### ④ブラックバイトの不当

【毎日新聞朝刊 2017/1/31 社会

セブン加盟店で、バイト病欠で罰金を取っていた。女子高生から9350円。店長「休む代わりに働く人を探さなかったペナルティだ」】

【毎日新聞朝刊 2017/2/24 社会

アルバイトの欠勤に罰金、愛知でも。労基法違反で、セブン店長が書類送検された。】

【毎日新聞夕刊 2017/3/7 社会

アルバイトで不利益変更が相次ぐ。時給を突然引き下げ

募集1600円、繁忙期過ぎ950円。拒否したら出勤停止にされた。男性は「あまりにも一方的。高時給で釣って、賃下げする予定で募集したのではないかと疑いたくなる」と憤る。】

ブラックバイトとは、アルバイト（アルバイト店員あるいはアルバイト職員）がブラックではなく、雇う側がブラックなのだ。

働く者が雇用主から不利益な処遇変更を強いられることを「不利益変更」という言葉で表されている。特にアルバイトにおいて、それが顕著だ。時給が引き下げられたり、罰金が請求されたり、働く時間が延長されたりするのが典型例だ。時給を引き下げる理由は、店側の勝手な言い分がほとんどであり、「繁忙期が過ぎた」「店の業績が悪くなった」などと言ってくるのだそうだ。そのくせ、アルバイト自身の業務内容はかわらず、忙しさも同じだ。時給が高そうだと思っただけで応募したのに、これでは話が違う。しかし、その店で働き続けようとするなら、安い時給に甘んじなければならなくなる。私はこれを、求人募集の「時給詐欺」と呼びたい。

アルバイトは、働く者の立場として一番弱い。賃

金も安く、だいたい最低レベルだ。労働契約上でも、いい加減だ。社会保障も何も無い。昇給も昇格も期待できない。上司や先輩にこき使われるだけ、といったら言い過ぎかもしれない。おそらく、マニユアルどおりの対応を強いられるのだろう。そして、働くからには、一定の責任を持たされるのが常だ。

仕事上、失敗をして店に損害をかけるようなことがあれば、罰金のような形で、給与からその分を引かれることが一般化されている。しかし、それは厳密に言えば、違法なのだ。アルバイトには働いた分だけ、給与が支払われるのが原則だが、アルバイトが店に不利益なことをすると、「罰金」とか「ペナルティ」と称してとしてその支払いから差し引かれたりすることが問題になった。遅刻したなら、その分単位の賃金を差し引くのは当然として、さらにペナルティを課しては、違反になる。故意による損害は別として、業務上の失敗やへまなどは「すみません」で済ますべきで、ただでさえ安い賃金から差し引くのは酷だろう。一つの問題例では、「欠勤したから」というのがその理由で、店長はそのアルバイトに対して、「欠勤するのなら、代わりの者を店に連れてこい！」と言っていたのだ。「代わりの者を出せと言ったのに、そうし

ないからだ」と理由をつけ、恫喝どっかっまがいのペナルティを課し、1か月まとめのアルバイト料から、差し引いたのだ。「病気で休みたい」と前日に通告しての欠勤でも、ペナルティを課せられた。この場合、アルバイトが都合により来れないならば、代わりの者を手配するのは、そもそも店主の仕事なのだ。

アルバイトが一言でも不平を言えば、「明日から来るな！」と言われてしまう。多くのアルバイトは、もう黙って引き下がるしかない。店主は、アルバイトの弱みに付け込んでいるのだ。セブンイレブンという大手のコンビニチェーン店でも、労基法違反になる行為をやっている実態がいくつか発覚した。その例では、プリントされた給与明細にはペナルティについては算入されておらず、手書きメモを添付していたというから、店長自身、違法性を知っていたことになる。

アルバイトの賃金減額で、実際に労基法違反として司法が動くケースはまれであろう。愛知のセブン店長が書類送検されたのは、よほど悪質なケースだったのだろう。パワーハラスメント的にアルバイトを恫喝したとか……。

⑤客の前払い金を踏み倒した「てるみくらぶ」

【毎日新聞朝刊 2017/3/20 首都圏】株式会社てるみくらぶ」  
広告文——現金一括入金キャンペーン、オンライン予約  
で10000円割引＋一括入金割引旅行代金の1%】

【毎日新聞朝刊 2017/3/26 社会

「てるみくらぶ」の海外格安ツアーで、航空券が発券されず。25日、同社は臨時休業した。観光庁にも顧客から相談が寄せられている。】

【毎日新聞夕刊 2017/3/27 社会

海外格安ツアー「てるみくらぶ」が破産申請した。負債150億円。顧客約3万6000人がツアーなどの代金を支払ったままとなっている。】

【毎日新聞朝刊 2017/3/28 総合・社会

てるみくらぶ破産は、9万人に影響する(約99億円分)。格安ツアー申込者は落胆している。同社は「航空券が発券済みでも宿泊できない恐れがある」としている。】

【毎日新聞朝刊 2017/3/29 社会

てるみくらぶは、破産直前までツアー客募集していた。山田千賀子社長「最後の最後まで銀行などと掛け合い、破産することはまったく考えていなかった」と釈明している。】

客のなかでも海外旅行中の3万6000人は、旅行代金を支払い済みなのに、さらに金を出さなければ、もう予約のホテルには泊まらないし、飛行機にも乗れないことに直面した。旅行会社が支払うべき金が支払われていないから、航空会社は扱いをとめたのだ。おそらく、それまで支払い遅延が一度や二度ではなかったのだろう。支払いが滞った旅行会社・てるみくらぶは、一気に倒産の憂き目にあつた。

多くの客から前払い金を集めるだけ集めて、いきなり倒産を宣言するとは、法的には問われないにしても、そうとうに悪質な行爲だ。客から集めた100億円近い前払い金が、返せなくなっている。約9万人の客の金に手をつけたことになる。私はそのスケールの大きさに、久々に感心をしてしまう。それが社会的に名知れた中堅企業のすることか。

会社ぐるみの組織的な悪意が感じられる。一番いけないのが経営陣だろう。てるみくらぶは、1998年に創業し、インターネットを利用して海外旅行パックを企画・販売していた。当初は、航空機に多少の空席があつて、そのディスカウント航空券を売りさばくことで、それなりの利益が出ていたという。その後、空

席がほとんどなくなり、他に業務を広げた。格安路線で、今では80人の従業員を抱える旅行代理店に成長し、今春にも何人かの新入社員を採用する予定だった。でも、それは会社が順調と見せかけるためのハッタリだろう。あるいは、会社が「火の車」だったから、働く従業員は忙しかつたためかもしれない。

会員の席で「倒産を考えていなかった」と社長は釈明したが、業績の低下と資金不足で倒産の危険があったことは、前からわかっていたはずだ。それなのに、倒産する日の直前まで、新聞広告を出していた（私が見たのは、毎日新聞朝刊3月20日首都圏）。かなり先々の日程の、多くのコースが掲載されていた。その広告で前払いをしきりに勧誘していたことも、悪質行為にあたる。破産宣告すれば、もう返さなくていいから（踏み倒すことになる）、その直前の金は「集め得」になる。返すつもりのない金を集めていたわけだ。旅行の手配業務が終わっていないのに、客の前払い金がなくなってしまうのは、盗んでいることと同じだろう。前払いにさせた旅行代金を会社の運転資金として使っていた実態がある。一般的に会社の業績が悪くなり、資金が足らないと、前払い金を流用してしまいがちだ。やはり、客の前払い金と会社の運転資金

金をごっちゃにしてはまずいだろう。少なくとも、口座を分けて管理すべきところだろう。客の前払い金の口座に関しては、その手配業務を終えたときに相当する金額だけを引き出すのが、本来の堅実なやり方だろう。代金を前払いさせるなら、客の金を預かっているという意識を持つてほしい。何に使ってもいいという金ではない。

ところがこの旅行会社は、客から集めた金を宣伝費に回し、新たな客を呼ぶために大々的な広告を新聞に載せていた。運転資金を確保するために、あるいは会社の赤字を穴埋めするために、客に前払いさせていたことになる。しかるに、広告を出すと、確かに客が集まるが、他社との価格差によって程度が違ってくる。多く客を集めるためには、大手旅行会社に張りあって、どうしても価格を下げざるを得ない。広告には格安な旅行プランばかりを並べることになる。客が集まったとしても、採算割れするような旅行プランにならざるを得ない。前払いによって一時的に金が確保されたとしても、トータルすれば持ち出しになったりする。それには経営陣が一番注意を払わなければならないところだろう。それが積もりに積もって、約150億円の負債になったわけだろう。約2年前から、業績が悪か

ったといわれている。新聞広告を出すようになった時期と一致している。会社ならば業績を会計監査の形で株主や監督省庁に報告するものだが、業績の悪さをこまかしていたというから、それを見抜けない監査法人にも罪の一端がある。ただし、業績の悪さが金融機関には見抜かれ、新たな融資には応じてもらえなかった。

大々的な宣伝をしても、価格競争のため、会社の業績が上がらなかつたわけだ。かえって、宣伝費が増えて採算を悪くしたようだ。業績が悪ければ、なおさら、広告を出して前払いという「金集め」に走らなければならなかつた。

客に前払いさせるのは、この業界では当たり前のことで、何のやましきもなかつた。しかし、とうとう会社の経営が行き詰まつた。航空会社や提携先代理店などにまとめて支払うべき期日が過ぎ、現地のホテルや航空券の発券が止められてしまった。内外の客たちから苦情の電話が一斉にかかつてきたとき、自分たちが多くの客の金をふんだくってしまったことに社長は気づく。

## ⑥ 韓国慰安婦の言い分

【毎日新聞夕刊 2016/10/4 総合】

首相は、日韓の慰安婦合意にないとして「お詫びの手紙」を（添付することに）否定した。】

【毎日新聞夕刊 2017/1/6 一面・社会】

政府が、韓国・釜山の少女像設置に対抗して、駐韓大使を一時帰国させる。杉山外務次官が、韓国側に撤去を要請した。】

【毎日新聞夕刊 2017/1/17 総合】

竹島に少女像設置計画、地方議員団体が募金運動している。】

【毎日新聞朝刊 2017/1/21 総合】

釜山の少女像設置で、岸田外相「事態は極めて遺憾」】

【毎日新聞朝刊 2017/2/2 社会】

冬季アジア大会で韓国選手団もアパホテルでの宿泊を拒否した。（各部屋に常備された問題の本に）「従軍慰安婦の強制連行はなかつた」との記述がある。】

【毎日新聞朝刊 2017/2/6 風知草】

『帝国の慰安婦』の著者・朴裕河。彼女は「日本軍人に連れ去られた少女」という定説を否定している。そのため韓国慰安婦に対する名誉毀損罪で訴えられた。韓国では「20万人が性奴隷にされた」という説明がまかり通っている。】

【毎日新聞朝刊 2017/2/7 国際

民団（在日本大韓民国団）の団長らが韓国外務省で釜山慰安婦像の移動を要望した。】

【毎日新聞夕刊 2017/3/2 社会

韓国国内で少女像60体、韓国「3・1独立運動」記念日の3月1日に続々と設置されている。】

【朝日新聞朝刊 2017/3/2 国際「激動韓国」

少女像の固定化を求める韓国世論。市民団体の尹鏞朝<sup>ユンヨンチョ</sup>局長は、像に日本政府が反対するのは「慰安婦問題を恥ずかしく思っているからだろう。日本の態度が韓国の国民感情を刺激し、少女像設置をおおっている」と語った。】

【毎日新聞夕刊 2017/3/28 社会

米カリフォルニア州グレンデールの慰安婦像に関して在米日本人団体が市に撤去を求め、訴訟を起こしたが、連邦最高裁が却下した。脇にある碑文に、慰安婦数は「20万以上」と書かれている。】

【毎日新聞朝刊 2017/4/8 社会

筒井康隆氏がブログで少女像への性的侮辱を促したところ、韓国で反発が広がる。昨年12月に翻訳出版した著書は絶版にされる。】

釜山の日本領事館の前の歩道上に「慰安婦少女像」

（日本での報道では、単に「少女像」という）が設置されると、日本政府は激怒した。「事態は極めて遺憾だ」というのだ。そんな少女像で、〈極めて遺憾〉という大げさな表現を使って韓国を非難する日本政府は、駐韓大使を帰国させるという強硬な態度を見せた。外交上、格段に深刻な問題にしたわけだ。しかし、少女像ひとつで、大人気ない反応だろう。過剰反応というべきだろう。少女像は、日本政府に対して、「あてつけ効果」抜群の代物であることが分る。

日本側の強硬な態度に、韓国国内でも反発が起きている。特に野党側の人たちが、圧力をかけてくる日本に対して、怒り声さえ上がっている。

筒井康隆はブログで、この少女像に対し余計なこと（そうとうバチ当たりなことだろう）をけしにかけて、韓国内では晩節を汚すようなことになってしまった。

この像は、民族衣装を着た少女が椅子に座っているだけのものだ。おかつば頭で、やや口を尖らせ、無表情の顔で、じっと前方を見つめている。アート作品として通用するかもしれない。なぜこれが慰安婦を示しているのか、一見しただけでは分らない。むしろ慰安婦らしくない。おそらく、製作者の意図としては、日



本はこんな少女までも従軍慰安婦にして、性的奴隷にした、と言いたいわけだろう。日本の古い政治家たちに対して、「そういえば、昔の日本に、こういう顔の少女が近所にいたなあ」と思わせるところが、効果の要因だろう。

この手の少女像が、韓国国内で60体前後に上っているとされる。これからも続々と作られる勢いだ。正確な数がつかめない状況だし、今後何体作られるか、よくわからない。海外でも、17体あるとされる。たとえば米国で韓国系の人たちが設置したというニュースが次々に聞こえてくる。韓国では、慰安婦少女像を作ることがブームなのだ。「日本政府はこれを見て謝罪しろ!」と、国を挙げてのキャンペーンになっている。少女像を設置すると、メディアが取材に来るから、ますます話題になる。その費用の寄付が集まりやすい状況があるに違いない。

慰安婦に対して冷たい日本に対する「あてつけ」になっている。そんなに慰安婦少女像を作る資金があるなら、元慰安婦に寄付したらいいのに、と思うかもしれないが、日本政府に謝罪させることに意味があるようだ。日本政府がゴリ押しして一つを撤去させたとしても大勢に影響ないし、その倍返しに設置されるのが

落ちだろう。

この少女像を日本政府は、ほとんど毛嫌いしていることになる。日本にやましさがあるから、無視できないのだろう。日本領事館の前に置くのは、韓国側にとつていいアイデアだったことになる。日本政府をいらだたせるのに、抜群の効果もつている。竹島に少女像が設置されたら、日本政府がどう反応するか、見ものだ。おそらく、ばかばかしいほどの猛抗議をするのだろう。

「少女像を見せ付けやがって……。これまで何度も金を用意して渡してきたろ? まだ金がほしいのか、」と、日本政府関係者はいらだたく思っていることだろう。日本政府にとつては、弱みを付け込まれ、実際なく、金をねだられている心境だろう。彼らは「もう70年前のことを蒸し返す。帝国軍人の恥、ひいては日本男子の恥をいまさらながら暴き立て、おおげさに騒ぎまくっている」ことに、怒りの感情さえ抱いているのだ。

「軍が慰安婦を強制したというのは朝日新聞記者のでっち上げだったことが判明しているじゃないか? てめーら、いい加減にしろよ!」と言いたいところをぐつと抑えている。そんな怒りの感情が、駐韓大使を一

時帰国させる態度に表れている。

慰安婦問題については、この「オブジェクション」で、以前にも取り上げたことがあるけれど、こんなに問題がこじれている状況では、また取り上げざるを得ない。日本政府の対応が悪すぎる。

韓国側の言い分は、「日本政府は金を出したけれど、謝罪していない」ことだ。金を出したことが謝罪を表しているとは日本側は言いたいのだろうが、それはやはり通用していない。「金を出せば、解決する」と思っていたことが、大間違いだ。逆に、金を出すことが、元慰安婦たちの心を踏みにじることになっている。日本政府は、うそでもいいから、誠心誠意謝罪する姿勢を見せないと、この問題は解決しない。

つまり、謝ってもらいたい韓国と、金を出しても、絶対に謝りたくない日本との対立がある。

彼女らは、「好き好んで体売ったわけではない」ことを認めてほしい。日本軍に体を提供したことで、韓国社会からさげすまされてきた。後ろ指差された屈辱と、恥を忍んできた。

金のためじゃない、名誉を回復したいのだ。

自分の意思で貞操を提供したわけではなく、軍に委託された手配師たちに「テーマらは、遊んでいる場合

か。皇国軍人さんの相手をしろ！」と言われ、追い立てられるように連れて行かれ、仕方なくやったことにしてほしいのだ。

戦後、日本軍に協力しただけでも、韓国社会では、石を投げられる行為になった。「日本兵に身を売るなんて、とんでもない女だ」と。

韓国社会のモラルが許さない。外聞が悪くて、自分が慰安婦だったことを隠さざるを得なかった。中には、性病をうつされた女性もいることだろう。心身ともに犠牲になったことを、彼女らは恨んでいる。何としても、自分たちを正当化しないといけない。このまま時が過ぎれば、元慰安婦たちは、汚名を着せられたまま、高齢のために悔いを残して死んでしまうことになるという危機感を持っていることだろう。

日本政府が少女像にいらだつのは、疚やましさがあるからだろう。ところが、日本政府にとって彼女らに謝るのは、たとえ外交儀礼であったとしても、しやくなのだ。日本政府は、元慰安婦たちが一人もいなくなることを待っているようなふしがある。

逆に、韓国側としては「外交儀礼でもいいから、日本政府から正式に謝ってもらいたい」という節が何える。

韓国側の主張では、日本兵を相手にした慰安婦は20万人以上いたとされる。20万の数については、日本では「大げさに誇張している」というような異論が出ているが、韓国側にそれなりの根拠があつてのことだろう。少女像に伴うプレートにすっかり刻まれているという。(この数に北朝鮮側の慰安婦が含まれているのだろうか。人口比から考えると、北朝鮮にはさらに10万人いたことになるだろう)。人を集めて慰安所を設営したのはすべて民間業者であつて軍は関与していなかったというのが、日本側の主張だ。韓国側から見れば、民間であつても、軍であつても、日本人に変わりはない。女性を求めて客となつたのは、好色な帝国軍人たちだ。「彼らが少女たちに対して強制した事実はない」と言えるにしても、強制に準じた行為を否定することはできないだろう。現に、少女たちを集めた彼らの中には誘拐に類することをやって、警察当局に取調べを受けたケースが見られる。多くのケースで、統治する側の権力をかさにして横暴な態度で圧力をかけたり、帝国軍人の士気を高めるためなどと体裁のいいことを言ったりして、貧しさにかこつけ、だまぐらかして(脅したりすかししたりして)少女たちを各地の娼館に押し込めたのだろう。

そうとうに恨みを買っていることは確かだ。侮辱的態度をとり続ける日本政府が、そんな彼女らの感情を逆なでする。「日本兵たちがお世話になりました」というお礼のひとつぐらい、日本政府は言つたらどうか。

### ⑦金正男暗殺

【毎日新聞朝刊 2017/2/4 国際

北朝鮮、秘密警察トップが解任されたと韓国が発表。金正恩キムジョンウン氏の側近の人物。】

【毎日新聞夕刊 2017/2/15 国際

金正男キムジョンムン氏(45)が13日午前9時ごろクアラルンプールの空港で毒殺されたと、韓国メディアは14日夜に暗殺のニュースを一斉に報じた。金正恩氏が、金正男氏は自らの地位を脅かす可能性があるととして殺害を指示したとの見方を伝えている。】

【毎日新聞夕刊 2017/2/16 一面

金正男氏殺害、当局、2人目の女拘束、男4人追う。】

【毎日新聞朝刊 2017/2/24 一面

正男氏殺害容疑者4人、中国避け、北朝鮮に帰国。中国の空港で身柄を拘束されるような事態となれば北朝鮮にとって問題となるために回避したとみられ

る。」

【毎日新聞夕刊 2017/2/25 一面、総合】

マレーシア警察は24日、遺体の顔から取ったサンプルで猛毒の神経剤VXが検出されたと発表した。素手で実行。実行犯の女2人の被害は軽かったことから、2種類の薬剤を別々に運び、現場で混合させてVXを発生させた可能性を指摘する声が上がっている。実行犯の女のうち一人が嘔吐などの中毒症状を発していた。シテイ容疑者の家族によると、ビデオ電話をした際「体調が悪い」と訴えていた。】

【毎日新聞夕刊 2017/3/1 総合】

正男氏の遺体、北京に。北京に向かうマレーシア機には事件の関与が疑われる在マレーシア北朝鮮大使館員と高麗航空職員とみられる2人が搭乗した。（北朝鮮から出国を禁止されていた）マレーシア外交官ら帰国。】

二つの液状の物質を混ぜ合わせると、有毒なガスが発生し、目鼻の粘膜や、皮膚を通じて体内に入ると、微量であっても致死量に達するというVXガスが、金正男の暗殺に使われたという。それも、白昼、多くの人々が行き来するマレーシア空港のフロアで行われたのだから、大胆な犯行だ。なりふりかまわず実行され

たと考えられる。

複数の実行犯が特定され、北朝鮮の組織的犯行だったことがわかってきた。それを指示した黒幕にまで真実が明らかにすることは、厚い国境の壁に阻まれて、マレーシア警察にとっては難しいことだろうけれど、容易に想像はつくことだろう。金正男を邪魔者じゃまものと考え、組織的に実行を指示できる人は、あの人しかない、異母弟の金正恩氏だ。

組織的計画的ではあるが、稚拙な犯行だ、とする見方もある。けれども、手際よく実行されている。防犯カメラの映像では、二人の女が正男氏顔に液体をかけ、ぬりたくった様子は、すばやかだった。一人が正男氏の前から、もう一人は征夫氏の後ろから手を伸ばし、顔に液体を降りたくった。数秒で実行し終わると、何気なく、その場を離れている。「私の仕事はこれで終わり」とばかりに、雇われ仕事の一つをこなしたように見える。それだけの行為で人が死んでしまうだから、結果的には重大だ。「液体をかけ、ぬりたくった」ことのために、警察に捕まり、厳重に取り調べられ、家族やボーイフレンドにも捜査の網がかかるのだから、私は少々彼女らに同情する気分になる。報酬をちらつかせられ、雇われ仕事のつもりで、雇用者側の指示通

り実行したことが、殺人という重い罪に問われるのだから、雇われた者の悲哀がある。テレビ番組の「悪ふざけ」として請け負った仕事が、結果的に殺人だった。2種類の液体の混合によって猛毒のVXガスが発生する仕組みで、毒殺したわけだ。

そして防犯カメラは、二人の女に合図を送ったり、その行動を見守っていた複数の男の影を映していた。彼らは北朝鮮の関係者だったことがわかっていて。彼らは、金正恩が医務室の方へよろけるように歩いていくと、一仕事を終えたとばかりに一斉に姿を消した。この様子を捉えたのも、防犯カメラの効果だ。北朝鮮関係者は、自分らの姿が決してカメラに映ってはいないことを知っていたはずだが……、このへんは、確かに稚拙な犯行だ。

ところで、事前に作業員たちは、空港のセキュリティについて係員に、防犯カメラの作動について質問したという。係員は「防犯カメラは動いていません」とマニュアル通り答えたという。実際は動いていても、そう答えるという。作業員たちはそれに安心し、彼らは防犯カメラが動いていないことを確かめたつもりで、犯行に及んだことになる。

係員は、犯罪の抑止にもならないというそを、なぜあえ

て言ったのだろうか。空港係員はうそまでついて、犯罪を誘発したことになる。たとえ防犯カメラが設置されていなくても、「見えないところで、動かしている」と答えるべきだろう。カメラの目があるとすれば、犯罪をたくらんでいる者は二の足を踏むものだろう。「防犯カメラ作動中」などというラベルを壁や柱に貼っておくだけで、犯罪防止の効果があるものだ。

ニュースの記事の中に、金正恩委員長が権力の座についたときから、金正男は送金を止められ、命を狙われていたことが報道された。金正男は常時ボディガードをつけて行動していた。中国が、金正男を保護していた事実も明らかになった。金正恩が何らかの要因によって死亡あるいは殺害されたときに、代わりに金正男を最高指導者に立てるためだとされている。中国としては、北朝鮮の金政権による独裁体制を保ちたい思想があるからなのだが、中国が、その都合によって、北朝鮮のトップの首をすげ替える可能性も否定できないわけだろう。金正恩としては、首をすげ替えられてはたまらない。それをさけるためには、すげ替え首をなくしておけばいい。

以下は、私が中心人物の言動を想像してみた内容だ。

——ある日の執務室で

「ナニー？ 正男兄あにいのバカ息子ハンソルが、オクスフォードの入試に合格しただと？ オクスフォードといえ、世界的な名門大学じゃないか。バカ息子どころか、けっこう優秀じゃないか。いい息子を持ちやがって、あのヤロー。下々のやつしもじもらは、父親も優秀と思つてしまふだろ？ 兄たちはオレより優秀であつてはならんだろ？ 兄たちを差し置いて、オレが親父の後継者になつたことの正当性が、また疑われるじゃないか。比べられて、やはり後継あとつぎは兄にすればよかつたのに、と思われたら、しゃくじゃないか。どうしてくれるんだ？ よし、ハンソルを入学させるな。テメーら、何とかしろ」

「わかりました。隣国を通じて、入学したら命がない、と脅すことにしましょう」

「だいたい、あの兄あにいは目障りなんだ。先に生まれたぐらいで、大きな面つらしやがる。女を困こまい、ぐうたら遊び、無駄飯食くつていらるだけで、ろくなことを考えていないだろ。オレの場合はすべて公務くわむなんだけれど……。あいつは地位も名誉もあるオレを常にやつかんあでいるんだ。最高指導者の世襲を批判しやがつて、自分が成りかかつたんだろ？」

内外で兄あにいを担おぎ上げようとする動きがあるだろ。

やつらは臨時政府とかいう敵対組織を作つて、反旗を翻ひそうとするんだろ。そんな芽は摘み取るに限る。前々から、始末しろといつてあるだろ？」

「はい、常に考えております」

「考えるだけじゃだめだ、実行せにあ。何度も失敗しやがつて……。さつさと始末せんか、何をもたもたしているんだ？」

「拙速ちやくそくだつたから、失敗したのだと考えています。段取りとタイミングが悪わるかつた。それに彼は他国で保護されている身みでして、外出するにしても、見張りなどをはべらせ、なかなか隙を見せません」

「言い訳は、もういい。よくそれで、秘密警察長官が務まるな。少し目をかけてやつたのに、ええい、テメーは首だ！」

——その数日後の執務室で

「新しい秘密警察長官あによお、テメーに、いい考えがあるということだな」

「はい、VXガスなら確実と思われます。体に痕跡が残らず、突然死と見分けがつかません。毒が効いて倒れるまでに少々の時間があり、警察が事件と気づく前に実行者が現場を立ち去る余裕もありません」

「ほんとうに確実と言えるんだな、おい」

「それはもちろん、秘密警察が拘束した何本かの丸太で実証済みです」

「丸太でか？ ……よし、いいだろう」

「あとで他国警察が検死して、精密な化学分析により VX を使ったことがばれる可能性もありますが……」

「ばれっこねえ。傷跡もないんだからな。ガスならまもなく飛散してしまふ。万一ばれたとしても、わが国が大量破壊兵器の一つ、VX も持っていることを知らしめることになり、世界中の国々がビビりまくるだろう」

「<sup>ボデー</sup>体をすぐに現地大使館が引き取るようにしましよ

う。そのためにわが国の外交パスポートを持たせる」

「すぐに兄いにパスポートを発行してやれ。……おぬし、知恵が回るのう」

### ⑧南スーダン P K O 撤退

【毎日新聞夕刊 2015/1/14 総合】

昨年 12 月に否決された対南スーダン制裁決議案、武器禁輸に棄権の日本を英国連大使が批判「考える必要がある」

【29】

【毎日新聞朝刊 2017/2/8 一面】

南スーダン、P K O 日報に「戦闘」との表現が複数回ある。政府の表現と隔たりがある。】

【毎日新聞夕刊 2017/2/9 一面】

南スーダン派遣の昨年 7 月に作成の日報、防衛省は電子データの存在を確認して 1 カ月後、稲田防衛相に報告。】

【毎日新聞朝刊 2017/2/16 社会】

南スーダンで、稲田防衛相「居直り」答弁。戦闘を「武力衝突」と言い換える。戦闘行為ではないと言い張る。】

【毎日新聞朝刊 2017/2/20 国際】

南スーダンで、高官辞任相次ぐ、最大民族ディンカ族中心の政府軍による「民族浄化」に抗議するとしている。キール政権がディンカ人による民族支配のため、「戦争犯罪、非人道、虐殺、民族浄化を行った」と非難。「兵士によるレイプが日常化している」】

【毎日新聞朝刊 2017/3/11 一面】

南スーダン P K O、政府が一転して陸自の撤収を決めた。5 月末までとする。治安の悪化を撤収の理由とすることは否定。】

【毎日新聞夕刊 2017/3/11 社会】

南スーダンから帰国する隊員が強いストレスを受けているとみられる。毎日新聞が取材で、防衛省が実施した



アンケートの結果は、うつ傾向が13年度2万1223人(10.0%)、15年度1万3684人(7.1%)いた。福浦厚子教授「心の悩みを書くことで不利益を心配する隊員もいるだろう」】

【毎日新聞朝刊2017/3/15 総合

7月15日は「SPLA・iO(反政府勢力)側における活動が活発化」との表現で状況を分析していた。政府は南スーダン反政府勢力に支配地域はなく、紛争当事者には当たらないとしてきたが、6月2〜26日までの日報には「反政府勢力支配地域」との表記があった。】

【毎日新聞朝刊2017/3/29 総合

南スーダン国連平和維持活動(PKO)への自衛隊派遣はもともとアフリカ政策を重視したオバマ政権の要請に応じた側面が強い。トランプ大統領の誕生で「対米協力」の意味合いは薄れた。】

### 1. 南スーダンの政情

スーダンは1956年にイギリスやエジプトの支配から脱し、独立を果たしたが、その後、革命やクーデターでいくたびか政権が代わった。特に、文化的に民族や宗派が異なることで南北対立があり、政府と反政府側との内戦が長く続いた。なまじつか南部に石油が

出るものだから、その利権争いもあった。内戦で多くの難民(1994年には10万人が周辺諸国へ)。トータルすると200万の難民・避難民)が出たと推定されることでも、世界的に問題になった。2011年、やっと南部の勢力が南スーダンとして独立を果たした、と思ったら、南スーダンの中で内戦が始まった。政権を握った多数派民族の指導部が、少数派民族たちを抑圧する構図になっている。圧政を敷く政権が反発を買い、抵抗運動のような武力闘争に発展している。民主主義では、多数派が幅を利かせてしまう傾向がある。どちらが正当で、どちらが残虐非道であるか、よくわからないところがある。

### 2. 国連での棄権

このところ日本が国連の会議で棄権するケースが目立つ。棄権は、判断力がないことを世界に知らしめていることになる。あるいは、問題点にまともに向き合おうとせず、逃げているように見える。南スーダン制裁決議案で、武器禁輸に関して棄権した日本に、英国連大使が苦言を呈した。当然だろう。紛争地域に武器を禁輸する決議に日本が棄権したことは、その紛争を黙認しているようなものだ。

### 3. PKO日報の隠蔽

PKO日報の中に、「戦闘」と「反政府勢力支配地域」の言葉が書かれていたから、自衛隊の幹部の指示によってPKO日報を廃棄したことにされた。失われたとされた日報が電子ファイルにあることがわかり、さらに調べると、日報自体も廃棄されていなかったことがわかって、隠蔽した幹部の責任が問われる事態になった。自衛隊幹部と防衛相との意思疎通の悪さも気になるところだ。

南スーダンにおいては「戦闘」はない、「反政府勢力支配地域」もない、と言い張っていた、政府のうそがばれている。言葉を言い換えるという「得意の手」を使って、言い逃れをしている。

政府側の思惑としては、南スーダンのPKOが、そんなに危険なところだとわかったならば、派遣できなくなる恐れがあったから、そうしたのだから……。政府は「戦闘」はないというが、現に、PKOで派遣された部隊の日報には、「戦闘が激しくなった」状況が書かれていた。政府に都合の悪い情報は、隠されるという一例になった。

今般派遣された自衛隊は駆けつけ警護の任務も付与されるから、政府軍と反政府武装勢力との戦闘に巻き込まれ、武器を使用するケースがいつ現実のものにな

るか、わからない状況だ。

PKOでは、これまでも、他の地域で死傷者（文民警察官一名が殉職）が出ていた。いつ戦闘が起きてもおかしくない地域に行くのだから、危険なのだが、自衛隊は戦闘のプロなのだから、派遣を命じられたら、それなりの覚悟をすることだろう。ただし、派遣された自衛隊が携わる一番の仕事は、道路工事だという。そのための重機を運び入れている。

しかし、「危険なところに自衛隊を行かせるな」という世論の声が根強いし、何かあれば、その声が大きくなるだろう。政府としては、自衛隊のPKOを実施しなければ、国際的な体面を保てないから、派遣せざるを得ないところがある。野党および一般国民の反対をなだめるためにかなりの制約をつけて、PKO派遣法を成立させた経緯がある。昨今、「駆け付け警護」を一つ追加することでも、議論が沸騰した。

その制約の中で特に、PKOの部隊が駐留し活動する地域は戦闘地域でないところであって、対抗する勢力が停戦をしていることが要件になっている。PKOの最大の役目が、停戦を維持することだろう。

南スーダンの現状では、武力衝突が収まっていない。むしろ活発化ほどだ。自衛隊が駐留する近隣地域でも、

対立する勢力が攻撃し、反撃し合う戦闘が行われている状況がある。散発的であるかもしれないが、交戦状態が続いているわけだろう。

#### 4. P K O 隊員の心労

その日報には、周辺の治安状況や戦闘状況、およびその分析結果が書かれているという。1年前に書かれた日報に、戦闘が激しくなってきたことが示されていたわけだ。政府は「戦闘は継続していかない」ことを理由に P K O を派遣し続けていた。日報を公表したら、政府のうそがばれてしまう。

いつ戦闘に巻き込まれるかわからない異国の地に設営された、まるで収容所のような駐屯地で、たいした仕事もせず、頭を低くしてじっと耐えるしかない隊員たちだ。冗談を言い合うような雰囲気ではまったくない。もちろん禁欲生活だ。苛立ちが募ることだろう。そんな緊張した状況が数カ月も続けば、だれでも精神的にまいってしまう。

隊員が帰国後に、うつ病傾向を調査するためのアンケートで、10パーセント前後が「あり」という結果が出ている。防衛省が実施したアンケートでは、隊員たちが率直に答えたかには疑問があり、実際にはもっと高い割合だろうとみられている。

#### 5. P K O 撤退

P K O 派遣にこだわっていた日本政府が、ここへ来て急に撤退を決めた。撤退することは、日本国民、特に派遣された自衛隊員の親族にとつて、幸いなことだろう。政府は、その理由を治安悪化が理由ではない、と言い張る。治安が悪化してきたから、というのも立派な理由の一つになることだから、むきになってそれを否定する必要はないのだが……。いままで、「治安は悪化していない」と言ってきたから、いまさらウソでしたとは言えないのだろうし、(危険になったから、撤退するのでは、みっともない)という意識もあったようだ。

南スーダンの P K O はアメリカのオバマ政権に強く要請されて派遣したものであって、トランプ政権に変わったことで、その必要がなくなつたから、日本政府は撤退を決めたのだ、との見解を示した新聞記事を読み、私は納得した。また、オバマ政権がアフリカを重視し、トランプ政権がアフリカを軽視することに、私は変に納得した。

ともあれ、日本政府はアメリカに迎合しているわけだ。国連での議決を日本が棄権するのも、アメリカの顔をうかがってやっていることだろう。

⑨ 悪魔払いの暴行

【毎日新聞朝刊 2017/2/24 社会】

「悪魔払い」日常的暴行、10年1月の生後間もないころから始まった。麻糰弥ちゃんの胸を突き飛ばすなどした。10年4月には女兒の保育園が顔にあさを確認して、市に通告した。」

【毎日新聞夕刊 2017/2/24 社会】

前橋、傷害致死、1歳児を床にたたきつけ「悪魔払い」、脳に致命的損傷か。」

【毎日新聞朝刊 2017/2/25 社会】

前橋、「悪魔払い」容疑者の次女、虚偽説明、事件当時、県警に「餅を食べさせたら急に倒れた」よく転ぶ子だった。」

【毎日新聞朝刊 2017/2/26 社会】

前橋、悪魔払いの容疑者の暴行を次女が認める。次女「先生のことかばれるとやばい」などと周囲に話していたという。」

【毎日新聞朝刊 2017/3/16 社会】

悪魔払い暴行死、母親の知人・北川順子容疑者（64）を傷害致死で起訴した。11年5月2日午後5時ごろ、

自宅アパートの部屋で城田麻糰弥ちゃん（1）の両脇を抱えて頭上に投げ上げ、床に投げつける暴行を加え、4日後に急性硬膜下血腫で死亡させたとしている。】

たった1歳の幼児が暴行を受けて死んだ。一度の暴行でなく、何度も繰り返されていた。周囲の人たちがそれに気づいていたが、助けられなかったのは、誰にも悔いが残ることだろう。

幼児の悪魔払いを「先生」に依頼した母親が、一番の問題だろう。子どものために良かれと思ってしたことだ。自分の子どもが殺されても、長い間、容疑者をかばい続けた。信頼していた「先生」に裏切られたことに気づくまで、時間がかかった。

死因から虐待が疑われていた（虐待死の典型例）のだが、その自分の子どもを失った被害者であるべき母親や、容疑者の周囲のもの、特に容疑者の近くにいた二女の証言で、警察は容疑者を特定することができなかったわけだ。かれらは容疑者に不利になるような証言をしなかったことになる。

誰が何のために虐待したかを解明するのに、警察はかなり長い時間をかけた。証言者たちが本当のことを語り出すまで、結局、警察は待たなければならなかつ

た。証言者のうそを見抜けなかったわけではなさそう  
だ。複数の人が容疑を否定するようならうそをつけば、  
立件できないのだろう。人の証言など当てにならない  
のだが、司法の場では、あいかわらず決め手になっ  
ている。

容疑者を「先生」としてあがめ、信じきっていた母親  
や、容疑者の娘でその収入でいっしょに暮らしていた  
人物が、不利になるような証言はしないものだ。それ  
がきっかけで警察に捕まり、殺人という重罪に問われ  
るかもしれないのだ。

何年かたって、ようやく、母親が悪魔払いを容疑者  
にお願いしていた事実を語りだす。呪縛が解けたよう  
に、今までの証言を翻したという。かれらの証言から  
も、悪魔払いは、暴行そのもののやり方だったことが  
わかる。幼児の体にあざがつくほどだった。茶化して  
言えば、幼児に取り付いた悪魔は相当しぶとい奴だっ  
たことになる。

泣き止まない幼児に対して、手荒なことをすれば、  
ショックで泣き止むこともあるだろうし、単に気絶し  
て泣き止んだのかもしれない。悪魔払いの暴行は、一  
時的には、泣き止ますために効果がありそうだ。

揺さぶられ症候群という言葉があるほど、幼児の脳

は未発達で、もろい。たとえ外傷がなくても、脳の内  
部に損傷が発生しうる。本件では「悪魔払い」を何度  
も繰り返していたから、そのために余計に悪くなった  
可能性がある。

この容疑者は霊能者と呼ばれる一人なのだろう。職  
業として成り立っていたというから、霊験あらたかな  
人だったのだろう。祈祷や治療もどきのことをして、  
よい効果があった例がいくつかあったから、「先生」と  
呼ばれていたわけだろう。その効果で人々の評判もよ  
かったのだろう。

なぜよくなるのかというと、心霊的な超常現象では  
なく、暗示的な心理効果だろう。人は思い込みやすい  
ところがあり、「この先生に祈祷してもらったり、手を  
かざされたり、もまれたりすると、よくなる」と信じて  
と、本当によくなるという事例が一般的に多くある。  
研究者がニセの薬を被験者に与えると、その薬が効い  
たかのごとく、何割かの人の症状がよくなる例が見ら  
れる（プラシーボ効果による）。

この母親Aは、おそらく自分の子どもが泣き止まな  
いことに心痛したのだろう。状況を推測すると、

——Aは鬱々とした気分になりなまっていた。わら  
をもすがる思いで、みてもらうと心身がすつきりとよ

くなるという近所で評判の女性がいることを思い出し、子どもを連れてその家を訪れた。対応に出た若い女性に案内されて家の上がると、霊能者のな雰囲気の中老の女性が部屋の奥に座っていた。その女性はAの話を一通り聞き終えると、子どもを抱いて見つめた。そして、「悪魔が取り付いている」と宣告した。それは半分信じられなかったが、「悪魔払い」の施術で、泣き止まなかった子どもから悪魔が退散する様子を目撃した。荒っぽい効果が抜群だった。子どもが安らかに眠りにつくとは、奇跡のような出来事だった。帰るとき、若い女性に礼金を渡した。

でも、数日すると、子どもは泣きはじめる。A自身は、何かにとりつかれたように「また、悪魔払いをやってもらおう」と先生の居宅に足を運ぶ……。

⑩ 赤ちゃんに嫉妬したゴールデンレトリバー

【毎日新聞夕刊 2016/4/5 一面】

東京都八王子市で3月9日、生後10カ月の女兒が祖父母宅で飼う犬のゴールデンレトリバーにかまれ、亡くなった。保育園で発熱し、祖父母が連れ帰った女兒がハイハイしてところ、体重約37キログラムの雄犬（4歳）が突

然、横から頭部付近にかみついた。失血死とみられる。祖母が「だめ」と怒ると、すぐ女兒を放し、おとなしくなった。かみついた原因について、専門家のあいだで見解が分かれる。」

犬が人をかみ殺すのは、かなり珍しいケースだ。しかも、賢くておとなしい犬種と思われていたゴールデンレトリバーが突然凶暴になったのだから、このニュースを聞いて驚いた人も多いことだろう。

なぜゴールデンレトリバーが女兒にかみついたか、いわゆる嫉妬だろうと私は解釈する。私は、犬が人間に飼われるようになってから身につけた習性（やきもち）だろうと思っている。

犬を連れて散歩すると、同じように犬を連れてたに出会ったとき、犬同士が吠え合うことがある。もう一方の犬を威嚇して吠える。「ワンワン」〈近寄るな〉という意味だ。〈ご主人が愛す犬はボクだけがいい、お前はあっちに行け！〉と言っているかのようだ。ご主人が他の犬に興味を持ち、心を移して「こっちの犬の方が可愛い。これを飼いたいな！ おまえは野となれ山となれ」となれば、不利益をこうむるのは自分だから、必死になって吠えるのだ。「ワンワン」

このケースでは、生後10カ月の女兒が保育園で発熱したから、職場から離れられない両親に代わって、祖父母の家に緊急的に引き取られたわけで、この家の犬にとつては見知らぬ新入り、犬が現れたことになる。

「ハイハイしていたから、犬のように見える。ご主人たちが、この新入りをたいそう可愛がっている。自分をそっちのけで、ちやほやしている。ゴールデンレトリバーに嫉妬の炎が燃え上がった。(こいつ、かみついてやる!)」 赤ちゃんにさっと近づいた。「ガブリ」

もう一つ私が考えるのは、犬のテリトリー意識が嘔む行動につながったという可能性だ。つまり、古くから(野生の頃から)の先天的な縄張り意識が現れたのだ。犬がおしっこで柱などに臭い付けする行動は、自分のテリトリーを主張しているものだ。新入りの「子犬」が自分のテリトリーの部屋に勝手に入ってきたことで、ゴールデンレトリバーが怒ったのかもしれない。そんなとき、人間でも怒るように……。

「ここはボクの領域だワン」

### ⑩長靴ギャグでまた怒られた政務官

【毎日新聞朝刊 2017/3/10 総合】

務台俊介内閣府政務官が「(昨年自分がおんぶされて水たまりを渡った後)長靴業界がもうけた」発言の責任を取り、辞表を提出した。当初は「辞職するほどの話ではない」という見方があったが、公明党の漆原良夫中央幹事会会長が会見で「国民におわびしなければならぬ」とを、笑いのネタにするやり方は許せない」

務台氏は昨年9月に岩手県を視察した際、長靴を持参せず職員に背負われて水たまりを渡り、批判された。菅義偉官房長官は9日の記者会見で「極めて不適切な発言だ。真に反省しているのか疑われかねない」と強く批判した。務台氏「自虐的な形で、自分をさげすむような言い方の裏返しとして引用した。深く反省している」

【毎日新聞夕刊 2017/3/10 総合】

政府は10日午前の閣議で、務台俊介内閣府政務官の辞任を決定し、後任に自民党の長塚康正衆院議員(59)を充てる人事を決定した。務台氏は防災や東日本大震災の復興を担当していた。8日夜に自身の政治資金パーティで、台風被災地視察に関連して「長靴業界は、だいぶもうかったんじゃないか」と発言した。菅義偉官房長官



は10日の記者会見で「国民にたいへん申し訳ない」と謝罪した。】

菅義偉官房長官がひとつのギャクに怒りまくった。

即刻、そのギャクを言った政務官に辞表を出させ、後任人事を決めた。公明党の漆原良夫中央幹事会会長も怒りまくったというから、与党の幹部連中が、こぞつて務台氏を批判したわけだ。幹部の逆鱗に触れた形だ。

ても、そんなに怒りまくるべきことだろうか。たわいもないギャクなのだ。厳密に言うと、ギャクに対して怒ったのではなく、反省の色を見せない務台氏の態度に怒ったわけだ。ギャクを言うとは反省していないと受け取られることに、要点がある。

本人にとってみると、長靴を忘れたぐらいで、何でこんなに怒られなければいけないのか、という理不尽さを感じていることだろう。それで引責辞任させられ、政務官という地位まで失ってしまった。しかし、何の引責なのか、よくわからないところがある。

昨年9月、台風の被害地・岩手に彼が視察に行ったときに、水たまりでおんぶされた図がおかしいから、ニュースになった。大の大人がおんぶされるのは、こ

つけないだ。災害が続く中で、ほっと一息できるような、「笑えるひとコマ」としてニュースになったと私は理解していた。

しかし、それを見て、笑えない人たちがいた。いらだち気味の被災者の中には、あるいは被災者の身になって考える人などは「台風で大雨が降った被災現場に来るのに長靴を忘れるやつがあるか!」「物見遊山で視察に来たんだろ!」「被災現場の状況がわかってない!」などと怒り出し、批判の声を上げたわけだ。そして、もう一方で「災害対応の政務官が長靴を忘れやがって、常識を知らないな。その上、足手まといになるような、みっともない姿をさらした。恥さらし野郎だ」とのことで、プライドが高く、頭の固い自民党幹部連中が、顔をしかめた。政務官が笑いものになったことで、政権与党・自民党の顔に泥を塗られた、と思ったのだろう。

彼をかばうことを私が言えば、遠くから眺めて視察したことにする人もいる中で、おぶさってまで被害現場に近づこうとした彼の熱意を買いたい。長靴を用意していなかったのは、周囲の人たちが悪い。長靴を用意するのは秘書の仕事だろう。現場で長靴が必要なら、事前に連絡をとり合うべきだろう。災害対策現場に、

長靴の一足、置いていない方がおかしい。彼は現地の状態を知るために行ったわけで、「長靴が必要だった」ことがわかっただけでも、収穫だろう。現地に行くまで「知らなかった」というのは罪ではない。

そして半年後の今年3月、「長靴業界は、だいぶもうかつたんじゃないか」の発言につながる。長靴を用意せず、おんぶされたことは、彼自身、痛恨の失策と思っていることは確かだ。周囲の誰もが失策と認識していることだろう。それをスピーチの中で自虐ネタにした。誰もが理解できるジョークのはずだった。〈長靴業界がもうかつた〉という話は、たわいもない「風が吹けば、桶屋がもうかる」的な話だ。聴衆は、それを聞いて「ああ、あのことね。彼はあれでくじったね」と思い出し、にやりとする程度のことだろう。

しかし、彼の上司に当たる与党幹部連中が、ジョークとして笑えなかった。むしろ怒り出した。「テメー、へらへらと笑いにしやがって、たるんでいるから、長靴を忘れるんだ。ぜんぜん反省してないな。懲りない奴だ」

「被災者の苦境を考えていないんだろ。自分のカッコの悪い話で、災害を茶化しているとは、不謹慎だ」

「国民におわびしなければならぬことを笑いのネタ

にしやがった」

などと激怒したわけだろう。長靴の件を笑いのネタにしたことが、彼らには大いに気に入らない。

しかし私は、政治家が国民におわびしなければならぬことなら、もつと他にたくさんあるだろう、と茶々を入れたいところだ。笑いのネタにすることは、ウィットだと私は解したい。笑いのネタで怒り出すのは、ユーモアを解さない、無粋な人たちだ。あるいは、つまらない人たちだ。日本には笑いを見下す文化がある。小さなミスなど、笑って済ませたいことなのに、「笑いごとじゃない」などといって冷水を浴びせる人が多い。

彼は自分の政治資金パーティの席のスピーチで、軽口をたたいた。参加者の中には気心の知れた知人たちが多かったに違いない。まじめくさっての報告会になつては、ぜんぜん面白くない。少しはくだけた話をしてよいはずだ。でも、ここだけの話が外部によく漏れる。

そんな自分の失敗をネタにして笑いをとる自虐ネタにしても、一つのユーモアになる。パーティのスピーチでは、格式ばった式典ならば別だが、話をおもしろくするためにも、冗談の一つ二つは当たり前にはさむ

ものだろう。たくみなスピーチ術になりうる。自虐ネタのような軽い冗談で怒るような人は、パーティに参加しない方がいい。

## ⑫ 戦前回帰

【毎日新聞夕刊 2017/2/2 特集ワイド】

政府が「テロ等準備罪」を国会に提出へ。戦前の治安維持法は社会運動を抑圧した。】

【毎日新聞朝刊 2017/2/3 クローズアップ】

共謀罪4度目を国会提出へ。国際組織犯罪防止条約を日本は未締結。「合意内容を推進する行為」（準備行為）がある場合に処罰する。】

【毎日新聞朝刊 2017/3/21 オピニオン】

森友学園への国有地売却問題では、戦前回帰（教育方針への）共感の空気が漂っている。背後に政治家が圧力をかけたか。】

【毎日新聞夕刊 2017/3/27 牧太郎】

教育勅語にある「一朝時ある時には進んで国と天皇家を守るべきこと」の教えを「戦争に引きずりの込んだ」と佐佐木校長はハッキリ否定した。右傾化が甚だしい。戦前復古の露骨な法整備が進む。そればかりか幼児に「教

育勅語」を丸暗記させ、お国のためならただ同然で土地を手に入れる詐欺的な学校運営も許される！と勘違いする教育者までいる。】

【毎日新聞夕刊 2017/4/1 社会】

厚生労働省は31日、3歳児以上を対象に保育現場で国旗と国歌に「親しむ」と初めて明記する保育所の運営方針を正式決定した。】

【毎日新聞夕刊 2017/4/5 与良談論】

閣議で「（教育勅語）憲法や教育基本法に反しない形で教材として用いることまでは否定されない」アベ政権は戦前回帰を目指しているとしか私には思えない。「森友学園」の教育方針と親和性があると役人がそんたくするのも当然かもしれない。】

【毎日新聞朝刊 2017/4/7 一面】

「共謀罪」審議入り。野党「監視社会化の恐れ」】

政府が戦前回帰を目指しているというメディアの指摘には、私はなるほどとうなずける。その法整備の一つが、「テロ等準備罪」だ。

「やつらは、よからぬことを企んでいるようだ」「あいつの主義主張がそもそもけしからん！」と思われると、任意同行で警察に連れて行かれ、きびしい尋問と

追及にあう……。

戦前は、天皇を頂点とする国粹主義的「国体」を否定する者や、戦争の反対を言い出す者など、政府にとって不都合な、あるいは邪魔な人々は、ビシバシ取り締まられた。その警察が狙うのは、最初は首謀者だったが、一般庶民にまで広がっていった（おもしろいように検挙できたからだろう。時にはいもづる式に……）。強引に拘束され、関係先などの自供を迫られた。左翼思想の作家・活動家と見られた小林多喜二は逃げ回っていたが、とうとう捕まえられ、警察で殴り殺された話は有名だ。今も語り継がれ、記念的行事が開催されている。言論が統制され、共産党や神道以外の新興宗教が弾圧された。それも、治安維持法を盾にしていたから「合法的」な行為になっていた。

悪名高い治安維持法だったが、政府にとっては、便利で都合のよかった法律なのだ。政府の方針に反するような活動をする個人や団体を取り締まれた。監視下に置くこともできた。共産党はこれによって苦しめられたから、仇敵のようなものだろう。徹底的に忌み嫌っている。

治安維持法の名前を変えたような法案が「共謀罪」だ。組織犯罪処罰法ではもの足りない政府が、ひねり

出した法案だった。野党の強い抵抗で「共謀罪」法案が通らないとみるや、政府はまた名前を変え、「テロ等準備罪」とし、内容を微調整しただけの法案を出している。メディアはその二つをわざと混同しているところがある。

国会会での成立を目指す。安倍政権が健全なあいだに、今度こそ成立させよう、という意気込みが感じられる。政府は「悪巧みするやつは、その実行前に全部捕まえてやろう」というわけだが、その「悪巧み」は、政府（政権）にとって都合が悪い者に適用したいのだろう。

この法案を成立させないと、国際条約を締結できない、テロ対策ができない、と政府は説明しているが、それは口実だろう。名前は「テロ等」と言いながら、「テロ」以外の犯罪に、かなり広い範囲で適用の網を広げている。「重大な犯罪」という括弧でまとめているからだ。「テロ等準備罪」では、「共謀罪」より絞ったとされるが、犯罪の種類がまだまだ絞りきれてはいない。むしろ故意に絞っていないところがある。「テロ」だけの共謀にすれば、私も納得できるのだが……。

### ⑬ 森友学園の野望

【毎日新聞朝刊 2017/2/17 社会】

大阪市豊中市の国有地、学校法人「森友学園」に格安売却の謎。

近畿財務局は昨年6月に随意契約で売却した。売却額の非開示の措置が問題になった。】

【毎日新聞朝刊 2017/2/24 社会】

防衛省が森友学園に感謝状を渡していた。園児の鼓笛隊が隊員を歓迎したり、保育士が自衛隊に体験入隊したりしたのを評価したという。】

【毎日新聞朝刊 2017/3/1 社会】

海自が過去3回、森友学園に感謝状を贈っていた。開示によると、籠池氏が園長を務める大阪市内の幼稚園が、1999年から、護衛艦が入港する際に、園児の鼓笛隊が演奏したり、乗員を激励する絵本や貼り絵を送ったりしていた。】

【毎日新聞朝刊 2017/3/3 一面、クローズアップ】

森友学園の籠池泰典理事長が、自民党参院議員の鴻池祥肇元防災担当相の事務所に頻繁に連絡し、小学校開設へ助力を陳情していた。陳情は2013年以降15回を数える。事務所はその内容を国に伝えて仲立ちしていた。

13年8月、籠池氏に近い兵庫県議が鴻池の事務所を訪れ、小学校開設の希望を伝達した。その後籠池氏本人が陳情するようになった。】

【毎日新聞朝刊 2017/3/3 社会】

森友は、鴻池事務所での用地取得の陳情で、露骨な要望をしていた。「土地価格の評価額を低くしてもらいたい」「ニワトリとタマゴの話。何とかしてや」

陳情記録の中に、事務所担当者が「どこが教育者やねん!」「不動産屋と違いますので。当事者間で交渉を」と書き込んだコメントもあった。

12年に、地元、豊中市の大阪音楽大学が7億円で購入する意向を国側に示していたが、価格面で折り合わなかった。】

【毎日新聞夕刊 2017/3/9 社会】

籠池理事長、経歴詐称か、1976年3月に「関西大学法学部」を卒業し、同年4月に自治省に入り奈良県に出向したと記載していた。一方で奈良県などの取材で77年に関西大の商学部を卒業後、4月に県職員として採用されていた。】

【毎日新聞朝刊 2017/3/9 社会】

「森友」3通の契約書、空港運営会社に、国に日付、違う金額だった。空港運営会社「関西エアポート」には、

15億5520万円の契約書を示し、騒音対策用の費用として、1億4800万円の助成を申請した。大阪府には、7億5600万円の契約書を示した。国土交通省には補助金の申請のために、23億8464万円の契約書を提出した。】

【毎日新聞朝刊 2017/3/13 社会  
森友元園児保護者がPTA入会拒否で退園を通告されたことで提訴。】

【毎日新聞朝刊 2017/3/21 社会  
国は指定の区域に、地中3.8メートルまでの大量のゴミがあると判断し、総量1万9500トン、8億円と算定したが、学園側は、校舎建設に伴う基礎工事や、くい打ちの際に出たゴミしか処理していなかった。】

【毎日新聞朝刊 2017/3/23 社会  
籠池氏が、きょう喚問される。国有地売買で政治家に口利きを依頼したか。

国は敷地の約6割で地価3.8メートルまで掘り起こしたとして撤去費を算定した。工事関係者はゴミの存在すら学園側から知らされておらず、別の行者は「基礎工事のため1.5メートルしか掘っていない」と証言している。】

【毎日新聞朝刊 2017/3/25 総合

稲田明美防衛省は小学校用地に関して、籠池夫妻が近畿財務局と大阪航空局を相手に昨年1月に土壌汚染対応を巡り、協議した裁に夫の龍示弁護士が立ち会っていたことを明らかにした。】

【毎日新聞夕刊 2017/4/6 社会  
森友学園の塚本幼稚園、保護者の同意書なく府に補助金を申請した。府は2016年度分の補助金を不交付と決定した。補助金は生涯のある園児1人当たり年間約80万円を支給。15年度の同園の対象園児は16人で、約1250万円を交付した。】

【毎日新聞朝刊 2017/4/7 社会  
大阪府の調査によると、森友学園の小学校計画で、政治家4人が審議状況などを問い合わせていた。平沼赳夫氏、中川隆弘府議、石川多枝府議、森みどり元府議】

【毎日新聞夕刊 2017/4/7 社会  
森友が産廃撤去費2000万円を不国交省から正取得か。森友学園が小学校用地として、15年5月に賃貸契約を国と締結後、同7〜12月、建設会社に産廃物の撤去工事を発注した。学園がいったん工事代金約1億3000万円支払った後、国交省大阪航空局が領収書などを確認し、返金した。しかし、建設会社が提示した工事経歴書によると、工事代金は、約1億10000万円だつ

た。】

【毎日新聞夕刊 2017/4/13 社会

大阪府は塚本幼稚園に支払われた補助金について確認するため2回目の立ち入り調査を実施する。高等森友保育園でも、専任教員数に応じて支払われる補助金を不正に受け取っていた可能性がある。】

## 0・籠池かごいけ氏のプロフィール

多くの人脈を持ち、政治家に働きかけ、行政を動かす——これは一つの才能だろう。その狡猾さに、私は感心する。

籠池氏の本性は、ずばり、詐欺師だ。また、トラの威をかるキツネだろう。のるかそるかギャンブラーでもあるかもしれない。しかし、詐欺師的な手法がばれて、キツネの正体を明かされてしまった。

この根拠として、まず挙げられるのは経歴詐称だ。学歴の学部が違っている。経済学部を卒業したのに、法学部と偽った。普通の感覚なら、間違えるはずがないところだ。法学部の方が、世間的に響きが良いという判断だったのだろう。卒業年度で1年差があるのも、怪しいところだ。1年留年したことを隠そうとしたのだろうか。

その後、森友学園創立者（故人）の娘と結婚し、その経営に参画した。

### 1. 政治家との人脈

籠池氏は政治との関わりの強い人だ。多数の政治家との関連が報道された。兵庫県議、大阪府議、国会議員、大阪府知事……など。

自民党の重鎮・鴻池氏には、何度も面談し、国有地の払い下げに関して口利きを陳情している。担当者がそのしつこさに辟易していたあとも残っている。政治家に取り入るためには、まず献金を出す。鴻池氏には20万円の献金が明らかになっている。トータルでいくら献金を出したが明らかになっていないが、相当な額に上ることが推察できる。元が取れる目算があつたことだろう。「お願い」を聞いてもらう、つまり陳情するためには、献金が必要なわけだろう。

今、政治を動かしている最大の実力者が、安倍晋三氏だ。問題の「瑞穂の国記念小学校」は当初、安倍晋三記念小学校と銘打って、入学者を募集したことがわかっている。安倍晋三氏は表には出てこないが、妻の昭恵氏が、十分に代わりの役割を果たしていた。彼女は名誉校長になり、広告塔にもなった。森友学園での講演会で3度もスピーチをしたとされる。おそらく、



集まった人々の前で学園や理事長たちを褒めちぎったのだろう。時の首相がバックに控えていたのだから、籠池氏は心強いことだったろう。

籠池氏は防衛大臣の稲田氏とも、旧知の間柄であることがわかった。稲田氏が森友学園側の弁護士として法廷に立った記録があった。(民事訴訟らしいが、森友学園でどんなトラブルがあったのか、興味深い。)稲田氏は、国会で野党側に質問に、しらばつくていたが、動かぬ証拠を複数提示され、ようやく認めている。

防衛省が森友学園に感謝状を出したのも、稲田氏との関わりがあるからだ、と私は推察する。籠池氏は同じ弁護士の稲田氏の夫とも関わりがあった。

その感謝状の理由が、振るっている。園児の鼓笛隊が隊員を歓迎したり、保育士が自衛隊に体験入隊したりしたのを評価したという。籠池理事長が、防衛省を取り入れるために、園児たちに鼓笛をやらせたり、保育士を自衛隊に体験入隊させたりしたのだろう。

森友学園は、防衛省の感謝状とは別に、海上自衛隊からも感謝状を3回もらっている。その理由は、防衛省の感謝状の理由と同じものだ。

「園児や保育士に何をやらせるんだ!」との声が私に

は聞こえてくる。そんな余計なことは、園児を教育するという本来の目的から外れている。学園のためにやらされているわけだろう。

## 2. 国粹的教育方針

「瑞穂の国」という名前にしても、保守系の政治家にとつて、そうとうに好感度の高いネーミングだろう。国粹主義的(愛国的、国家主義的)な人に、かなりのアピール効果がありそうだった。

森友学園の園児たちに、教育勅語を暗記させ、唱和させる動画がある。森友学園は園児たちにこれも余計なことを教えているものだろう。教育勅語は文語体だから、園児たちはその意味を理解していない、と私は思いたい。それは、国家に都合いいことばかりが並べられた文言であるからだ。

教育勅語を暗記させ、唱和させるなんて、幼稚園では問題ないしろ、小学生で教えたなら、学習指導要領や教育基本法に抵触することだろう。教育勅語は1948年、国会で排除・失効確認を決議したとある(広辞苑)。政府は、「憲法や教育基本法に反しない形で教材として用いることまでは否定されないと」言っているが、苦しい解釈だ。わざわざ、森友学園を擁護している。保守的な自民党の人たちが、いまま教育勅語

を支持しているところがある。

森友学園の園児たちに、「安倍首相、ガンバレ」と言わせたりしている。教諭たちが言わせたのであって、園児たちが自発的に、そんな「政治的発言」をするはずがない。理事長の指示があったからだろう。

これらは、森友学園の「政界工作」と私はみる。政治家に取り入るためだ。つまり、森友学園の園児たちは、安倍首相が喜びそうなことをしている。安倍首相が森友学園に、昭恵婦人を通じて100万円の寄付をしたという話は、安倍首相本人は否定しているが、ありうることだろう。

### 3. 塚本幼稚園の問題

なお、籠池氏の妻は、規律にこだわる人で、彼女が園長を勤める幼稚園では、口うるさく注意しまくる、という評判がある。意に沿わない園児や職員がいるなら、どうするか、容易に想像できる。いわゆる強制退園だ。手のかかる児童をどんどん退園させていた実例があるという。

森友学園の塚本幼稚園は、逆に手がかかりそうにみえる、障害のある児童を多く受け入れていたが、保護者の同意書なしに高額な補助金(二人あたり80万円)を申請していた。申請が通って受給している。これは

疑惑のある補助金受給だ。保護者の知らぬ間に、幼稚園側が園児を障害ありにしていたことが考えられるし、すでに退園させていた可能性もある。

その他、金にせちがらい。PTA会費でも、幼稚園側によって不明瞭な運営がされていることで、保護者とトラブルになっている。

### 4. 小学校新設

籠池氏の野望は、森友学園を発展させることだ。義父から受け継いだ幼稚園経営に飽き足らず、もつと上の学校を創設し、自分が創立者になることだ。「このままでは、妻に頭が上がらない」とでも思ったのだろう。

私学の小学校を創立するためには、金とコネがいる。森友学園に余分な資金はなかったはずだが、「政治家とのコネを持てば、金の方も何とかなる！」と彼は思ったことだろう。

あの国有地を政治家のコネでタダ同然で買い取ることでできそうだと彼は目星をつけた。それは簡単なことではなかった。役人たちの融通性のなさに阻まれ、ニワトリとタマゴのジレンマ(土地を取得しないと認可できないという大阪府と、認可されなければ土地を払い下げないという国)に陥ったりしたけれど、天下一

品の後ろ盾（有名政治家たちの口利き）のおかげで、なんとか打開できたわけだ。

国有地の売却は一般的に公売にかけるものだろうが、豊中市の国有地で籠池氏は随意契約（一対一での交渉による）にすることに成功している。籠池氏の小学校設立に、役人たちが協力し合った形だった。つまり、役人たちが付度した背景には、政治家たちの意向があったと考えるべきだろう。

この土地をほしいとする企業や法人は他にもいたのに、国は小学校建設を前提に籠池氏に払い下げた。その国有地は、もともと、ため池を埋め立てた土地だ。それ埋め立てのときに残土や建築廃材などを投入するものだろう。掘りかえせば「ごみ」が出てくるのは当然だが、それなりの厚さの土を被せているし、有毒なものではないから、再処理する必要はないのに、籠池氏はその撤去に動いた。国の費用負担で……。

籠池氏は、小学校建設前に行った、地下に埋もれた産廃物の撤去工事（実際は校舎建設のための基礎工事のために掘り出したものとの証言がある）において、工事代金約1億3000万円の領収書（実際は1億1000万円）を作成させ、それによって国から代金を引き出した疑いがある。その差額は籠池氏のふところ

に入ったことになる。

その後、籠池氏はまた地下からゴミが出たと騒いで、土地購入価格から8億円を値引きさせた手腕には、私は感心してしまう。地下の「大量のゴミ」を処理するための費用として国は8億円を算定した。土地の購入価格から値引きした。

しかし、彼はそれを撤去せずに校舎の建設を始めた。校舎の建設がほぼ完成し、あと一步のところ、彼の野望は頓挫した。なぜなら、あまりに安く払い下げられたため、疑惑の目が向けられた。その彼らの追求によって、手口がつきつきにばれてしまった。追及の矛先が行政や国政にも向けられた。ゴミ処理の工事をしていない土地に8億円の値引きするなど、民間なら、背任行為だろう。しかし、自民党が盾たもとになった。

補助金をもっと多く引き出そうとした「がめつさ」が籠池氏の敗因だろう。幼稚園経営での補助金不正取得の疑惑が、数多くわかってきたが、一番の問題は、小学校建設工事に関して3枚の金額の異なる契約書だろう。籠池氏は「その3枚は別々のところに出すものだから、見比べるはずがない」と思っていたわけだろう。しかし、追求され、調べられると、その「狡猾ぶり」が明らかになってしまった。助成金や補助金を多

くもろうために、金額を変えた、と考えられる。大阪府には一番安く、7億5600万円の契約書を提出したのは、小学校新設の認可を受けやすくするため、と考えられる。資金不足と判定されると、正式認可が下りない恐れがある。建設業者によると、籠池氏に求められて3枚を作成したとのことだ。